

## 自ら学び続ける教職員研修支援事業 活動報告書

学校名 笠松町立笠松小学校

テーマ 自己を見つめ、自らよりよい生き方を求め、実践する子  
～道徳科の授業と他の教育活動を関連付けて～

## 取組のポイント・成果

## 【取組の内容とポイント】

## ■講師による研修（令和7年8月21日）

考え議論する道徳にするために、道徳科の授業だけでなく、すべての教科でどのような視点をもつ必要があるのかを考えることができた。また、ワークショップを通じて、教職員同士で考え議論することの必要性を感じることができた。



## ■県外研修による研修（令和7年12月24日）

実際に県外研修に参加した教諭が、職員に対して模擬授業をする形で研修を行った。道徳資料を基にした授業ではなかったが、教師の意図を明確にすること、児童が自分の思いを自分の言葉で語れることの重要性を再認識することができた。また、自分の思いを語るための具体的方途を知ることができ、実際にどのような活動を仕組むとよいか考えることができた。



## 【成果】

- ・他の教育活動との関連を図るための視点が明確になり、意図をもって教育活動を仕組むことができるようになった。
- ・様々な学校の取組を知ることで、教職員の刺激になり、どのような共通点があるのか、どのような形で取り入れることができそうか考えることができた。

## 今後の課題

- ・今まで研究で積み上げてきたものと、研修で学んできたものを融合させ、自己を見つめ、自らよりよい生き方を求め、実践する子の育成を目指したい。
- ・活動に関わる還元については、校内研修において共有を図るのみになっている。今後は、研修で学んだことを授業に取り入れ、公表会を通して広く情報発信をしていきたい。